

仕事が楽しい人 F i l e . 6 8 : 中尾歩さん

(プリザーブド&アーティフィシャルフラワーアレンジメント)



◆嬉しいの連鎖を生み出す仕事

第68番目の仕事が楽しい人は、プリザーブド&アーティフィシャルフラワーアレンジメントの中尾歩さんです。

誕生日や母の日、七五三や入学・卒業、結婚祝いなどの晴れの日には、女性に花を贈ると喜ばれます。ただ、せっかくの贈り物も、生花は時間が経つとしおれてしまうので、これを見るのも捨てるのも、贈り主に申し訳なく、花にも可愛そうな気分になってしまったりもします。

そんな嬉しい（嬉しくて切ない）を補う技術、それが、生花を特殊な液につけて水分を抜き日持ちさせるプリザーブドフラワーであり、生花をよりリアルに再現したアーティフィシャルフラワー。

中尾さんは、これらをアレンジして、花時計や写真たて、ボールブーケにリース、正月飾りなどを顧客からの要望に合わせて制作したり、フラワーアレンジメントのレッスン教室を開催しています。

この仕事の楽しさは、“作って嬉しい、贈って嬉しい、もらって嬉しい”の様子を目の当たりにできることにあると、中尾さんは言います。

例えば、クリスマス前になると、リースを作りにくる生徒が増えます。

生徒が最初に思考を巡らせるのが、花選び。

花の種類や色、どんな組み合わせにしようか、手に取り並べながら、自分のベストを探します。

次に制作。

土台のリースを置き、選んだ花をどのように配置するか考えながら、のり付けする。

飾りつけにも工夫を凝らします。

この花選びから制作をしている生徒の嬉しい楽しい表情を見るのが、中尾さんの第一の楽しみ。

出来上がったリースを手にした生徒さんは、品評会を始めます。

「ここをこうすればよかった」

「この配色は、思った以上におしゃれに仕上がった」

など、おしゃべりはつきません。

このリースを家に持ち帰り、家族にお披露目し、ドアに飾ります。

すると、ご主人や子どもたちから、

「ママ、本当に自分で作ったの？」

「凄いのができたね！」

と、驚きの声が上がります。

時には、ご主人から直接中尾さんに喜びの声が届くこともあります。

この時に、中尾さんは、

「旦那さんがさりげなく、奥さんを褒めてあげる機会をつくれているのだな」

との思いに、心が満たされるのだそうです。

自分の家庭に置き換えても、ご主人から褒められたり、お礼を言われる機会はなかなかないもの。

食事の度に「この料理美味しいね、ありがとう」と言われても、なんだかなという感はぬぐえない。

この、「なんだかな」という日常のもやもやを吹き飛ばし、ごく自然に、

「こんなの欲しかったんだよ！」

と絶賛できる機会を生み出していると、中尾さんは感じるというのです。

これからの中尾さんの楽しみは、卒園式や入学式用のコサージュ作り。

ママの服の襟元につけるコサージュと同じものを作り、娘さんの髪につける。

ペアのコサージュに、ママと娘さんの愛が込められ、なんとも言えないほっこり感が醸し出されてきます。

中尾さんは、

“作って嬉しい、贈って嬉しい、もらって嬉しい”

にとどまらず、

“飾って嬉しい”

“つけて嬉しい”

という、嬉しいの連鎖を生み出す仕事をしています。

#### ◆中尾さんが大切にしているキーワード

感謝

感謝が人生を充実させる。そんな実感を持って生活しています。

ですので、意識して「ありがとう」を発するようにしています。

#### ◆中尾さんのパワー○○○

お酒を飲む

お酒を飲んで人が楽しそうにしている姿を見ると、自分も楽しくなります。

#### ◆中尾さんのコツコツ

洗面所の蛇口のノブをピカピカに磨く

汚いと悪い気が集まってくるような感じがするので、毎日、ノブを磨き、心を綺麗にしています。

#### ◆志高く、度量の大きい人たちに囲まれている中尾さん

中尾さんが、プリザーブド&アーティフィシャルフラワーアレンジメントの仕事についたきっかけは、遡ること13年。

友人の紹介で始めた、ホテルビジネスの専門学校のフラワーアレンジメントの講義の手伝いでした。

授業には40人ほどの生徒が参加するので、毎回、毎回、多くの花を扱います。

たくさんの花に囲まれた中尾さんは、

「もしも、もっと前に、このような経験をしていたら、間違いなく、花屋になっていただろう」

と、思えるほど、花好きの自分に気づきました。

先生の

「花は、人の気持ちにも影響をもたらす」

との講義を聞き、

「本当にそうだなあ」

と思え、花の魅力にますます引き込まれていきました。

が、

「花屋になるには、今の年齢からでは遅い」

と、直感的に思ったのだそうです。

当時、中尾さんは、25歳。

決して始めるには遅いというほどの年齢ではないのですが、

中尾さんは、この“花が好き”の思いを行動に表しませんでした。

結局、2年間、このアシスタントの仕事が続けた後、きっぱりと辞めてしまいました。

その後、両親を安心させたい気持ちも働いて、外食系の企業に入社し一般事務の仕事に就きました。

数年後に結婚、子どもを授かり、育児休業に入りました。

出産後、しばらくして、友人の紹介で会った人から衝撃を受けます。

それは、

“ママになってからカフェを開業”

した人だったからです。

育児休業している時の過ごし方は、3パターンあると、中尾さんは言います。

- ①子育て以外の時間を、自分の余暇に使う（無計画に過ごす）
- ②子育て以外の時間を、資格取得などの勉強に当てる（充電する）
- ③子育て以外の時間で、何か新しいことをはじめる（新たなチャレンジをする）

カフェのママさんは、③。

このカフェでは、顧客にお店を開放し、

- ・料理講座
- ・写真講座
- ・ハーブティーの講座
- ・アロマエッセンス講座
- ・バスソルト作り講座

など、自分のできるを磨き、人の役に立とうしているママさんが、たくさんの講座を開催していました。

中尾さんは、③のママさんたちに触発され、自分も何かやってみたくて奮い立ちました。

何ができるか自問し、浮かんだジャンルが、“花”。

専門学校でアシスタントをしていた時の思いが蘇りました。

こうと決めたものの、人様に教えるほどの見識も技術もない。

資格取得講座に通うと決めますが、育休ののこり期間は、わずか4カ月。

資格取得に要する期間は、通常 6 ヶ月。

中尾さんは、やるしかないと思いを決し、短期取得を目指し教室に通い始めます。

時には、赤ちゃんを抱っこして、時には、ご主人の協力を得て、

知識と技術の習得のために、日夜努力を重ねました。

結果、4 カ月間で資格を取得できました。

育休が明け職場復帰した中尾さんは、社長に、育休中の体験談を話し、

「副業でプリザーブド&アーティフィシャルフラワーアレンジメントの仕事をさせてください」

と願い出ます。

社長からの答えは、

…？

「わかった。頑張れ」

でした。

今、政府が主導する働き方改革の一環で、副業解禁の方針が打ち出されていますが、

中尾さんが副業を願い出たのは、6 年前。

社長の度量の大きさが光ります。

中尾さんの現在のワークスタイルですが、

月曜日から金曜日は、フルタイムで事務仕事。

定時に退社し家事をこなし、1 時間ほどプリザーブドフラワーを制作。

土日がレッスン日。月 2 回開催。

レッスン中は、ご主人やご両親が、子どもの面倒みてくれています。

#### ◆中尾さんのプロフィール

職業：プリザーブド&アーティフィシャルフラワーアレンジメント

所属：Marche de Fleur(<http://ameblo.jp/marchedefleur/>)

#### ◆プリザーブド&アーティフィシャルフラワーアレンジメントとは？

(13 歳からのハローワーク公式サイトから抜粋しました：フラワーアレンジメントの先生より)

花の生け方やブーケ作りを生徒に教えたり、店舗やレストランなどに花をディスプレイする。現在日本国内で取得できる資格には、日本フラワーデザイナー協会が設けているフラワーデザイナー（1～3 級）や、フラワーデコレーター協会のフラワーデコレーター（1、2 級）、中央職業能力開発協会のフラワー装飾技能士（1、2 級）などがある。しかしこうした資格がなくても、フラワーアレンジメントの先生にはなれる。たと

えば独学でもいいし、花屋に勤めて、アレンジメント技術を覚える方法もある。また、イギリスなど海外のフラワーアレンジメントスクールに短期留学して、本場の技術を獲得し、感性を磨くのも手だ。成功するかどうかは、最終的に本人のセンスと技術次第。また人間的な魅力や営業力なども大きく影響するだろう。

◆プリザーブド&アーティフィシャルフラワーアレンジメントに求められる能力

協力者を得る力：副業をサポートしてくれる人に囲まれる人間力

段取り力：2つの仕事と家事をこなす力

利他力：人の喜びが自分の喜びになる力

明るさ：何事にも楽しさを見いだす力

技術力：凄いと驚嘆されるプリザーブド&アーティフィシャルフラワーアレンジメント力